

# 奈良県感染症情報

平成 30 年 第 46 週( 11 月 12 日～ 11 月 18 日)

奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)

<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

## 今週の概要

- 小児科外来情報
- 保健研究センター11月日より「エンテロウイルス D68 型の検出について」

## ◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	4.26	(3.74)	↗	↑	↗	↘
2	手足口病	1.76	(1.71)	↗	↑	↗	→
3	A群溶連菌咽頭炎	1.50	(1.88)	→	→	↗	↓
4	インフルエンザ	0.71	(0.82)	↑	↑	↑↑	↑
5	RS ウイルス感染症	0.65	(0.65)	↓	↓	↘	↓

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)

増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

## ◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの報告が続いています。第 46 週では、特に中和保健所管内西部地域で報告数が増加しています。これから、流行のシーズンに入っていきます。まだインフルエンザの予防接種を受けていない方は、早めに接種するようにしましょう。マスク・手洗い等の感染予防、咳エチケットによる感染拡大防止を心がけるようにし、急に 38 度以上の発熱が出て、咳やのどの痛み、全身の倦怠感を伴うなどインフルエンザが疑われる症状が出たときは、早めに医療機関を受診しましょう。

手足口病は、例年の同時期よりも報告数が多くなっています。治った後でも、比較的長い期間、便などからウイルスが排泄されることがあります。トイレの後やおむつ交換後は、石けんできちんと手洗いを行いましょう。

## ❖ 小児科外来情報 ❖

### 北部地区(矢追医院)

外来はインフルエンザ予防接種希望者で多くなっているが、感染症に目立った増加はみられない。インフルエンザは迅速検査で A 型がみられるが、増加傾向は今のところない。嘔吐と下痢、発熱の感染性胃腸炎も流行がみられない。数は少ないがまだ手足口病が一部の保育園でみられる。

### 中部地区(岡本内科こどもクリニック)

咳嗽例が増加。RS 様の乳児例(1歳以上)  
マイコプラズマ様(迅速陰性)の学童も多い。  
ノロ様の嘔吐例、および下痢が主体の感染性腸炎例が持続。  
大腸菌(分離選択培地確認済)が検出され血便が遷延した乳児例があり紹介入院した。  
ロタ陽性例はなかった。  
全身粟粒～米粒大発疹症の乳児例がありウイルス分離提出中。

### 南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

マイコプラズマ感染症の流行が続いている。遷延する咳嗽、夜間の発熱と症状は典型的だが、テトラサイクリン不応例が多い。

嘔吐下痢の胃腸炎が増加、ノロウイルス迅速では陰性だが対症療法で軽快している。

インフルエンザの当科受診例はまだない。

❖ 定点把握感染症報告状況 ❖

平成 30 年 第 46 週 11 月 12 日 ~ 18 日

保健所別報告数	奈良県		北部		中部		南部	
	奈良市	郡山	中和(東)	中和(西)	内吉野	吉野		
インフルエンザ定点数	55	14	14	11	10	2	4	
インフルエンザ	39 (0.71)	24 (1.71)	2 (0.14)	3 (0.27)	9 (0.90)	1 (0.50)		
小児科定点数	34	9	9	7	6	1	2	
RSウイルス感染症	22 (0.65)	2 (0.22)	1 (0.11)	10 (1.43)	9 (1.50)			
咽頭結膜熱	20 (0.59)	4 (0.44)	3 (0.33)	4 (0.57)	9 (1.50)			
A群溶連菌咽頭炎	51 (1.50)	8 (0.89)	4 (0.44)	6 (0.86)	33 (5.50)			
感染性胃腸炎	145 (4.26)	41 (4.56)	30 (3.33)	33 (4.71)	40 (6.67)		1 (0.50)	
水痘	13 (0.38)	4 (0.44)	3 (0.33)	6 (0.86)				
手足口病	60 (1.76)	8 (0.89)	24 (2.67)	10 (1.43)	18 (3.00)			
伝染性紅斑	1 (0.03)			1 (0.14)				
突発性発しん	18 (0.53)	2 (0.22)	1 (0.11)	4 (0.57)	10 (1.67)		1 (0.50)	
ヘルパンギーナ	9 (0.26)		4 (0.44)	2 (0.29)	3 (0.50)			
流行性耳下腺炎	1 (0.03)	1 (0.11)						
眼科定点数	10	3	3	2	2	0	0	
急性出血性結膜炎								
流行性角結膜炎	11 (1.10)		1 (0.33)	7 (3.50)	3 (1.50)			
葛城定点数	6	1	2	1	1	0	1	
細菌性髄膜炎								
無菌性髄膜炎	1 (0.17)			1 (1.00)				
マイコプラズマ肺炎	4 (0.67)		1 (0.50)					3 (3.00)
クラミジア肺炎								
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)								

❖ 全数把握感染症報告状況 ❖ ( )は保健所別内訳

1類感染症	
2類感染症	結核4件(奈良市4)
3類感染症	
4類感染症	
5類感染症	アメーバ赤痢1件(中和1) 侵襲性肺炎球菌感染症1件(郡山1) 梅毒3件(奈良市1、郡山1、中和1)

❖ 第46週のトピックス ❖

◆風疹急増に関する緊急情報:2018年11月14日現在

<https://www.niid.go.jp/niid/images/epi/rubella/181114/rubella181114.pdf>

※平成27年2月16日より桜井保健所と葛城保健所は統合され中和保健所となりました。  
旧桜井保健所分は中和(東)、旧葛城保健所分は中和(西)として集計しています。

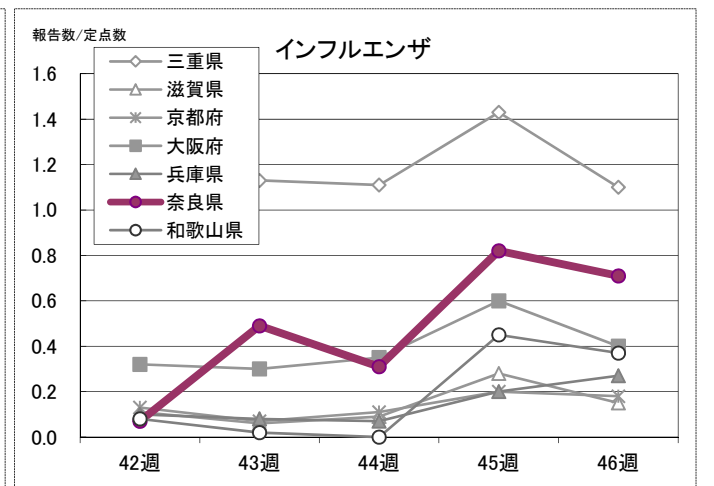
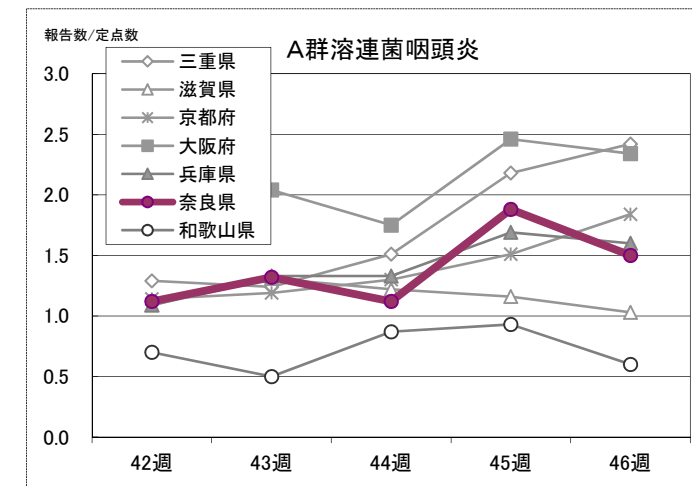
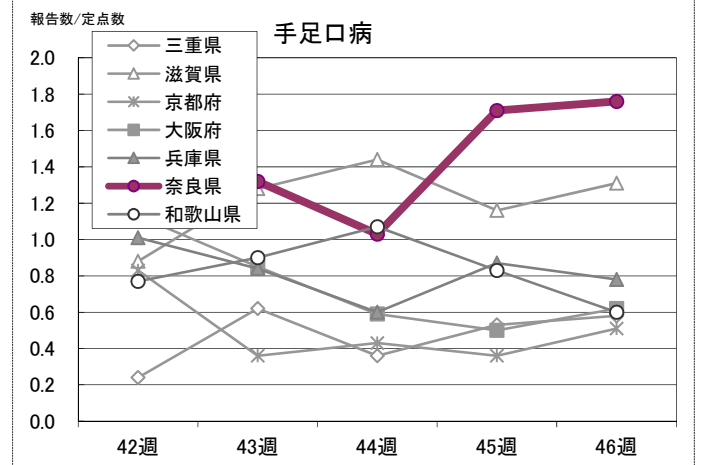
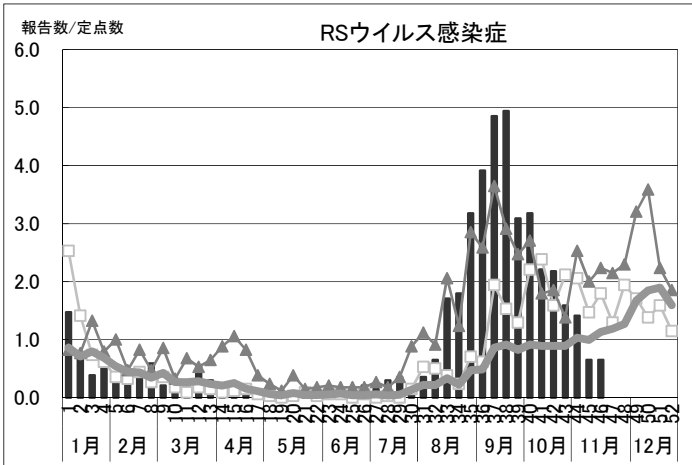
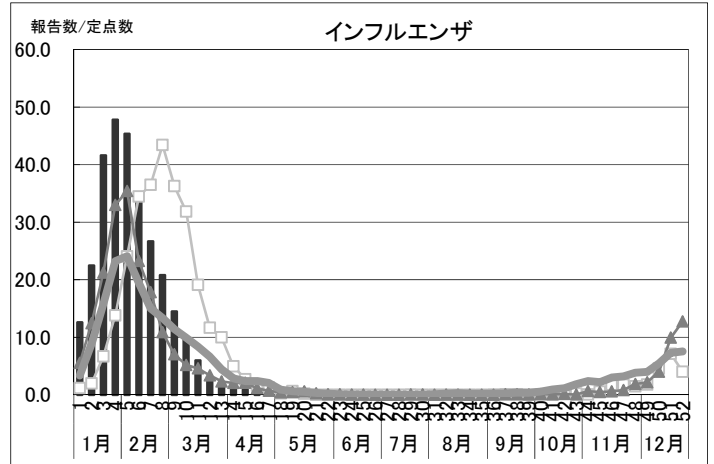
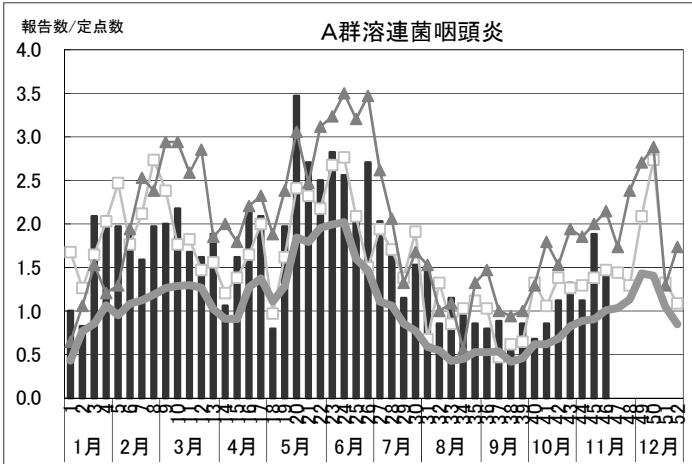
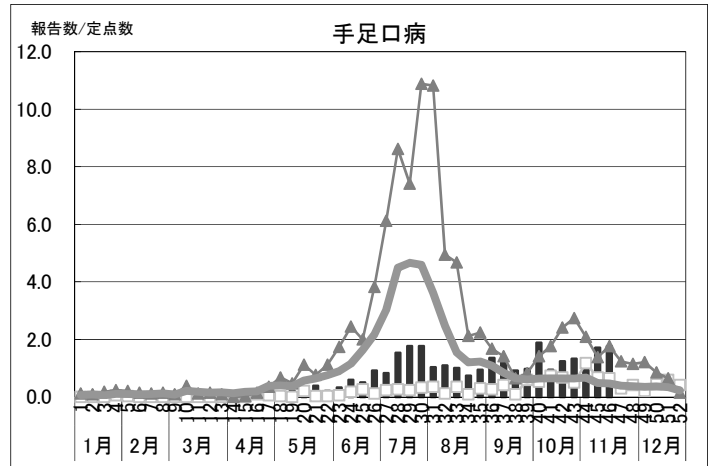
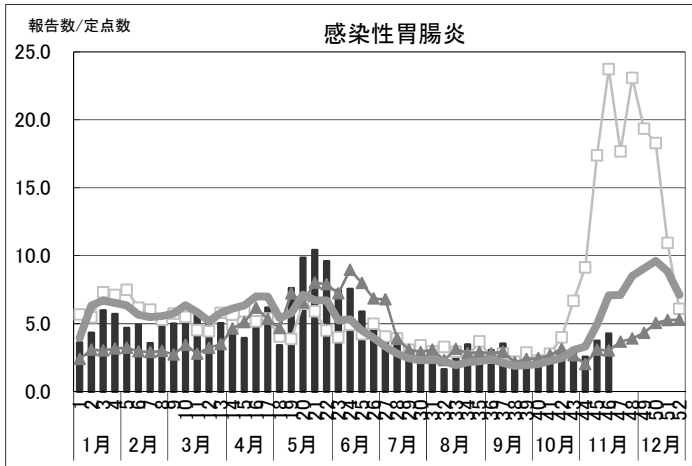
上段 : 報告数  
(下段) : 定点当たり報告数 報告数÷定点数

年齢別報告数

年齢区分	年齢	0-5M	6-11M	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-	合計	累計
インフルエンザ	男					1	1		1		1	4	6	1	1		2	1				19	7911
	女						3		1	1	3	2	6			2	1					20	7904
RSウイルス感染症	男	3	1	3	1	1	3															12	803
	女	1	3	4	1	1																10	725
咽頭結膜熱	男		1	3	1	1	3		1	1												11	315
	女		1	3			1						2									9	277
A群溶連菌咽頭炎	男				3	5	4	8	1	3	2											26	1361
	女			3	3	1	5	6	2	1	1	3										25	1178
感染性胃腸炎	男	7	7	5	7	8	4	11	1	3	2	4	4	4								67	3823
	女	4	9	13	5	10	9	3	3	3	2	9	2	8								78	3388
水痘	男	1								2	4		1									8	183
	女	1	1			1						2										5	199
手足口病	男	3	6	4	6	1	2					1	1									24	578
	女	1	11	10	6	5	1	1				1										36	441
伝染性紅斑	男												1									1	121
	女																						125
突発性発しん	男		1	5	2		2															10	334
	女	1		4	3																	8	317
ヘルパンギーナ	男		1					1														2	501
	女		1	2	1		2								1							7	429
流行性耳下腺炎	男																						
	女						1															1	57
急性出血性結膜炎	男																						
	女																						1
流行性角結膜炎	男			1					1						1	1	1			1		6	159
	女				1								1	1	1	1						5	164
細菌性髄膜炎	男																						7
	女																						6
無菌性髄膜炎	男																					1	6
	女											1											5
マイコプラズマ肺炎	男			1		2																3	30
	女				1																	1	26
クラミジア肺炎	男																						
	女																						
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	男																						33
	女																						23

❖注目疾患の動向❖ 全て定点当たり報告数

■ H30 ▲ H29 □ H28 〰 過去10年平均



## エンテロウイルス D68 型の検出について

弛緩性麻痺との関連が指摘されているエンテロウイルス D68 型を、県内で約 3 年ぶりに検出しました。

### ➤ 患者情報

1 歳 6 ヶ月男児。入院。散発、家族内発生なし。診断名は喘息様気管支炎で、発熱は最高 40.2℃。発病 2 日目の 9 月 22 日採取の鼻汁検体から EV-D68 を検出。

### ➤ エンテロウイルス D68 型とは？

エンテロウイルス D68 型 (EV-D68) は、発熱や鼻汁、咳といった軽度のものから喘息様発作、呼吸困難等の重度の症状を伴う肺炎を含む様々な呼吸器疾患の原因ウイルスです。

2014 年には、米国でアウトブレイクの発生が報告され、日本でも、2015 年秋に全国的な流行がみられました。また、急性弛緩性麻痺 (AFP: Acute Flaccid Paralysis) の患者から EV-D68 が検出されており、その関連が指摘されています。

### ➤ 国内の検出状況

病原微生物検出状況 (2018 年 11 月 8 日作成) によると、2015 年には全国的な流行があり、9~11 月頃にかけて 285 株の検出がありました。2016 年には 1 株、2017 年には 6 株と検出は少なかったですが、同様に秋に検出がみられました。2018 年は、9 月末から現時点で 31 株の検出があります。

また、全国では AFP の報告が 10 月頃から増加しています。広島市では、AFP 患者から EV-D68 が検出されたとの報告もあります。

### ➤ 奈良県内の検出状況

奈良県では、EV-D68 の検出は 2 件目になります。前回は、2015 年 10 月に 1 株検出されました。前回の検出では、患者の臨床診断名は肺炎でした。

### 【参考】

- ・ IASR 急性脳炎および急性弛緩性麻痺患者からのエンテロウイルス D68 型の検出—広島市  
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/id/2335-disease-based/a/ev-d68/idsc/iasr-news/8412-466p02.html>
- ・ IASR 東京エンテロウイルス D68 が検出された小児の 3 例—東京都  
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/a/ev-d68/2335-idsc/iasr-news/8400-466p01.html>
- ・ 急性弛緩性麻痺を認める疾患のサーベイランス・診断・検査・治療に関する手引き  
<https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/disease/AFP/AFP-guide.pdf>

《ウイルス・疫学情報担当》